

元気なひと なかま



きた ずみ
北角 幸一さん
(鈴鹿市社会福祉協議会
社会福祉士)

☺ ふだんの仕事

鈴鹿市社会福祉協議会(社協)で、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指して活動しています。たとえば誰でも介護を必要とする時がいつかはやって来ますが、なるべく慣れた環境で歳を取りたいと思うのは当たり前のことだと思います。そのようなまちづくりのお手伝いを地域住民や関係機関などと連携して行っています。

☺ 6月初め、岩手県大槌町へ派遣

現地では被害があまりに大きいため、全国から訪れる多くのボランティアの受け入れ対応が難しい状況になっていたため、そのお手伝いをしてきました。現地社協の職員に同行して、避難所では家族を亡くされた方のお話も伺い、心理的なケアも必要と感じました。

☺ 福祉に興味を抱いたきっかけ

祖父母の介護をする母の姿を見て育ったことや、小学生の時に障

がいを持った同級生がいたことで、福祉というか、自分にも何かできることはないかなという考えを、わりと早くに持つようになっていました。

☺ 今後の目標

地域には自分一人での判断、契約などが難しい方がいます。そのような方の権利を守るために「成年後見」という制度があって、サポートセンターを来年4月に立ち上げる準備をしています。独立したセンターを作ることで今より身近な制度になるように、さまざまな分野の方たちと共に検討を進めているところです。

これからも地域に関わりながら、「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせに、したいです。



派遣先ボランティアセンターにて

モータースポーツに学ぶ

交通安全

「言い訳しない運転」のススメ ～サーキットでも公道でも～

選手交代やピット作業のある耐久レースなどを除き、スタートしてしまえばレースはドライバーひとりの戦いです。抜こうが抜かれようが、勝とうが負けようが、すべて自分の責任でゴールをめざします。仮に他者(車)の原因でアクシデントに巻き込まれて戦列を離れようとも、自分が敗者になったという事実以外には何も残りません。言い訳無用の世界なのです。

そこで、普段の運転でも「言い訳しない運転」を

心掛けてはいかがですか。ヒヤッとしたとき「こっちはちゃんと運転しているのに…、そっちが悪いのに…」などと、うしろめたい気持ちを隠しつつ自分を正当化したことはありませんか？

でも他者を責めるより、なぜそのような危険にさらされたかを冷静に考えてみましょう。何より事故を起こさなかったことの幸運を噛みしめましょう。だってあなたのめざすゴールは愛するわが家なのですから。



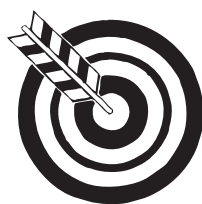
レーシングドライバー 福山英朗(鈴鹿モータースポーツ友の会 理事)

広報すずか 2011年8月5日号

キーボード



今年4月から40歳の手習いで弓道教室に通い始めました。地元行事で体験したのが興味を持ったきっかけでした。スポーツは得意ではありませんが、相手との競争ではないこと、力まかせの競技ではないことは自分に合っている気がします。週一度の2時間の練習は、まだまだ基本の繰り返し



返して、矢はまっすぐ前に飛んでくれません。上級者の練習を見ていると、何より型的美しさに見とれてしまいます。いつかはあのよう射てみたいものです。

この7月から広報すずかの編集に携わることになりました。弓道と同じように記事がまっすぐ前に飛ぶよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。(保)



鈴鹿市携帯サイト
「元気モバイル」

■発行/鈴鹿市 〒513-8701 鈴鹿市神戸一丁目18番18号 ☎059-382-1100 (代表) 🌐 <http://www.city.suzuka.lg.jp/>
 ■編集/企画財務部秘書広報課 ☎059-382-9036 ☎059-382-9040 📧 hishokoho@city.suzuka.lg.jp
 ■印刷・制作/指定就労継続支援事業所 第2八野ワークセンター印刷係 ☎059-375-4381 ☎059-340-8810



吉紙配合率100%再生紙を使用しています。この冊子は資源ごみの「新聞」に分別してください。